



荻窪駅の萩 (2012)

杉並景観録

SUGINAMI Keikam-Roku

第十八号



●発行日 平成 25 年 3 月 29 日
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代)



(1992)



神田川和泉小学校付近の桜 (2012)



観泉寺 (2012)

杉並百景



魚鐘 (2012)



(1992)



(1992)



(1992)



景観週間ロビー展示 平成 24 年 11 月 19 日～22 日
区役所 1 階ロビーで、「杉並百景」の今～そとしての写真を
展示しました。
※「杉並百景」は区HPに掲載しています。

「杉並百景」の今～そして

平成四年、区制施行60周年を記念して、身近な杉並のまちやまちなみを見直して、もらうことを目的に「杉並百景」を選定し、出版しました。

「杉並百景」の選定にあたっては「あなたの一景。このまちの一景。みんなで百景」をキャッチフレーズに「わたしの一景」を広く募集しました。この中から候補地200景を絞り込んだ「杉並の人とまち」を作成し、投票により「杉並百景」が選ばれました。

「杉並百景」が選ばれてから今年で20年です。この間、バブルの崩壊や大震災などを経験し、都市を取り巻く環境が大きく変わり、杉並区内でも大規模な土地利用の転換やまち並みが大きく変わってしまった所、失われてしまった景観があります。一方で、以前から変わらぬ景色や文化、生活が継承されている所、そして、新しい公園や建物など人々の心に刻まれていく新しい景色や景観もできました。

このようなまちなみのうち、「杉並百景」として切り取った景色を、区制80周年を迎えた今年、「杉並百景」の今～そしてもう一度その場所へ行って見つけてみましょう。そしてこれらは、100周年、120周年へのスタートとなる一瞬の姿でもあります。

基調講演 「身近なパブリックからの風景づくり」



中井 祐さん
(東京大学大学院工学系研究科教授、
杉並区まちづくり景観審議会景観専門部会会長)

パリのまちなみ

私は、景観論や土木の景観デザインを専門にしています。ヨーロッパのまちなみは、建物の高さがピタッと揃っています。建物の外壁のデザインとか素材とか、非常に統一がとれている。その最高峰として、パリがあると学生の頃は思い込んでいました。初めてパリに行ったのは学生の時でしたが、美しさは理解しましたが、共感はできなかったのです。全部石造りの建物で、どこまで行っても同じような建物で、歩いていて疲れてしまうという感じがしました。パリのまちなみができたのは、日本で言えば、江戸時代の末期から明治時代の初期にかけてです。その点、パリはやや特殊です。ヨーロッパのまちなみは、中世、もしくは近世以前にできたものを、丁寧に保全していることが美しいのであって、近代以降の都市の風景、建物のデザインはあまり日本と変わらない、と言うと異論があるかと思いますが、私には日本人がコンプレックスを抱く程とは思えません。つまり、近代以降、どうやって、個々の建築や開発行為によって景観をつくっていくかは、全世界に共通の課題で、日本だけの問題ではないのだと最近は思っています。

景観法について

少し前に景観法ができました。これは、画期的な法律だと評価しています。その理由は三点です。一つは、建築や開発行為の規制、誘導です。極端な事例、景観を害するような色彩、形状とかを一定程度良くする効果は確かにあると実感があります。ただし、高さを揃える、壁面を揃える、建物の意匠を揃えるのは、まちなみ景観が基本的に目指すべき方向だと思いますがそれだけでは、良いものができてくる積極的な動機は生まれません。二つ目は、景観法の枠組みの中に景観重要公共施設という、道、川、広場などの公共空間や施設の質を向上していくための制度がきちんとあります。もう一つ、良好な景観の保全ですが、地域の景観を形づくってきた大事なものは、景観重要樹木や景観重要建造物に指定して残

していく枠組みがあります。これら規制・創造・保全の三つを、いかに組み合わせながら、地域全体の景観の向上に繋げていくかが知恵と汗のしほりどころかなと思います。

コロンビアのメデジン市

コロンビアのメデジン市で公営図書館の設計に関わりました。このメデジン市は、非常に深刻な都市問題を抱えたまちでした。どういう問題かという治安です。ひどいときには、一日にまちなかで20人以上殺されていた時代もあります。ちなみに、日本の自殺率は、コロンビアの現在の殺人率と同水準です。世界で最も治安の悪い国と同じくらいで、かなり深刻な状況なことと考えさせられました。そのために景観づくりとか、公共施設の整備で、一体何ができるかと真剣に考え始めました。このプロジェクトは、図書館を造って、そこを子供達の教育のために解放し、コミュニティの中心にすることによって、まちなかに平和を広めていこう、子供達を中心に笑顔を広めたいというものでした。この時に思ったことは、このまちは平和に飢えていたのだなということでした。逆に現代の日本の我々が飢えているのは何かかと考えました。景観づくりというのは、我々が飢えているものどこかで繋がっているのかなとずっと考えています。

地域のまちづくりから

ひとつのモデルとして、静岡県三島市の源兵川があります。住民がかなり頑張って、自然豊かな川になりました。我々が何に飢えているか、ということのひとつの答えは、身近な自然の中で人と人、人と自然とかが、緩やかに触れ合ったり、繋がっていると感じるような場所に飢えている感じがします。日本のまちや都市、杉並もそうですけれど、ヨーロッパの都市と決定的に違うのは、水や豊かな地形が必ず自然が混ざり込んでいることだと思います。ですから、パリに行った時に感じた違和感、徹底的に人間の精神によって作りあげられた、構築的まちだったからと今は思っています。もっと自然が混ざり込んでいて、その自然と触れ合えられるような接点が点在している方が好きですし、落ち着くと思っています。そういうまちづくりができればと思ってやっている最中です。杉並区はその素質が十分あると思っています。建築物の規制や誘導と併せながら、公共空間で市民と協力しながら、共有できる風景を、小さくても良いからつくりだしていく。公共の価値を高めて、民地の方もそれに対して敬意を払うような関係ができれば、好循環に向かっていくのではないかなというのが、私なりの思い、スタンスです。

景観シンポジウム 景観からのまちなみづくり

景観に配慮したまちづくりとは、どのようなものなのでしょうか。新たな魅力を創出し、今あるまちなみを生かした、杉並らしい景観まちづくりを考えるシンポジウムを開催しました。

(平成24年11月28日、産業商工会館3階講堂にて)

コーディネーター

倉田 直道さん (工学院大学建築学部街づくり学科
教授、杉並区まちづくり景観審議会
会副会長)

パネリスト

中井 祐さん (滋賀県立大学名誉教授、日本建築家
協会 (JIA) 杉並地域会会員)
林 昭男さん (株式会社プランニングセンター代表
取締役、杉並区まちづくり景観審議会
会委員)
田邊 学さん (東京農業大学地域環境科学部
造園科学科講師)
栗田 和弥さん (東京農業大学地域環境科学部
造園科学科講師)

パネルディスカッション



倉田 パネルディスカッションを始めさせていただきます。杉並区を意識しながら、「景観からのまちづくり」についてお話をお願いします。



栗田 私は、まちの中のまちづくりが専門ではなく、山岳地の景観保全や自然保護を担当しています。

杉並もどんどん風景が変わっていきます。変わっていく風景をどのように捉えて守っていくかということ、検討していく必要があると思います。例えば建物は、1、2年で完成できます。私の言葉ではないのですが、樹木や植物などで覆っていく、守っていくことで、10年経てば風景というものができる。それらが定着していったら、市民に愛着をもち育てていくと、100年続いたものは風土になっていく。そういう言葉もありますから、緑に対していろいろアプローチしていきながら、守り育てていくことが、大事なのではないかと考えています。



田邊 私は、色彩の景観を専門にしています。特に建築物や土木構造物の色彩を専門としています。最近のマンションは、白黒のメ

リハリの効いた、モノトーンのデザインが流行っています。非常に場所を選ぶデザインではないかと思っと思っています。特に杉並の場合は、緑も多くて、まちが暖かい雰囲気をもっている。実際に使われている色も暖色が多いということもあって、このようなスタイルを持ってくる所ではないと思います。場所を加味して色を選ぶという観点を持ってもらいたいと感じています。

杉並区では景観計画の中で、公共施設についても専門部会で意見を聞くという制度があります。川沿いの柵もこの制度をつかって審議しました。柵の色を決めることは簡単なように思えますが、風景をどうやって整えていくかがきちんと議論されていないと、柵の色ひとつ決めることもできない。非常に簡単なようで難しいという問題が、色を選ぶことなのかなと思っっています。



神田川



林 私は、西武新宿線井荻駅の近くに50年以上住んでおり、杉並区などのボランティア的活動に参加しています。

大学で教えていた滋賀県にいた時、琵琶湖の畔に学校がありました。その関係でよく琵琶湖を眺めて、とても美しい景色で、特に日没時はずっと陽が沈むまで状況を眺めて楽しんでいました。いつもは陸上から見ていたのですが、ある時船で湖上にいました。湖上から陸上を見ると、あまりにも風景が良くないのです。なぜかなと思っ

建築がいたずらして景観を損ねているのです。そんなことを強く感じまして、やっぱり建築は考えつつくらなければいけないと思っしました。

中井 杉並の道の曲がり方とか入り方とかは、もともとの農地の水の流れの地形に沿って土地利用をしていった。複雑な景観、道すがすが、杉並の特徴だとすれば、もしかしたら水の論理なのかなと思っっています。

二つ目は、景観専門部会の委員として、最初は、色ひとつ変えただけで何の効果があるのかなと思っっていたのですが、それを10年20年やると、杉並って良いまちだなんて素直に思えるようなベースができていくかもしれないと思っようになってきました。三つ目は、私は土木が専門ですので、神田川と善福寺川を見るとムズムズする。なんとか良くしたい。

倉田 緑豊かな住宅地において、色彩をどう配慮したら良いのかという観点からお話をお願いします。

田邊 緑をより美しく見せるという時に、一番重要なのは、緑の鮮やかさです。それを超えないようにするのが、建築や人工的なものあり様だと思っます。緑の葉っぱが彩度6くらいで、杉並区の景観のルールも彩度6を超えないようにつくられています。鮮やかさを控えるために、緑がいきる環境を整えるのが大事だと思っます。

倉田 川沿いをもう少し気持ちの良い場所にできるのではという話もありますが、何かお感じになっ



善福寺川

いることがあれば、お話をお願いします。

中井 川に着目する意義は、必ずしも川に自然を取り戻そうとか、川を観光的な空間にするとか、川の中だけに閉じた話だけにどまらないということがあるのだと思っます。もっと広い、まち全体の土地利用をどうするか、というところまで議論が膨らんでいきます。

もう一つは、日本のまちの良さというのは、どこでも四季が感じられることかなと思っます。杉並は、そういう価値に満ちているからこそ、住みたい方が集まってくるのではと想像します。そういう環境を維持していくには、やはり、水なんです。水を大事にしたまちづくりや景観づくりを議論してつっくっていくれば、杉並の未来は明るいかなと思っます。

倉田 特に河川を見ると、そのまちに住んでいる方たちの意識や価値観が表れてくると感じています。景観というのは、表面的なものだけでなく、そこに暮らしている方たちの生活の営みであるとか価値観とか、少しずつ積み重なってまちの姿に表れているものでもあると思っっています。

質疑応答

Q 歓楽街や飲み屋街の狼雑さの維持と景観について

倉田 人が住んではじめてまちですから、ただセツトのように、人の気配を感じられない綺麗なまちをつくっても意味がないわけです。まちの中というのは、場所と人々の活動があいまって、ひとつのまちになるバイタリティになる雰囲気をつくりだすのですから、狼雑さを含めて景観を認識するのだから思っっています。ただ、どうやって、狼雑さを好ましい形で維持したりつくりだしていったりするかは、課題かなと思っます。

Q 広告と景観との兼ね合いについて

田邊 屋外広告物の話は、非常に難しいのですが、あり様として赤ちょうちんというのは非常に素晴らしいものだと思います。なぜかと言いますと、必要な時にはしまつのです。それが今の広告物にはなくて、とにかく大きい、目立つ、付けてしまえば後はそのままというようなものが問題であると思っます。広告物にも必要な時はしまつような工夫がなされると、ちょっと違うまちができるのかなと思っっています。

倉田 今日は、「景観からのまちづくり」について、いろいろお話を伺えたと思っっています。ありがとうございました。



パネルディスカッション

アンケートより (当日参加された方からのご意見です)

- ・特に日本の問題点から見る、景観まちづくりの方法として公共施設を用いるという点は参考になりました。
- ・異なる立場の人々が主体的に役割を担ってける環境づくり(=まちづくり)の中で、そのために人々が共有できる要素のひとつが景観であると考えています。文系分野の人間として、文化的なソフトパワーを活かした景観まちづくりを模索していきたいです。
- ・まちづくりが社会問題の解決につながるという考え方が共感できた。最近の世界の景観事情が良く解り楽しかった。公共空間の大切さが理解できました。
- ・私たちの住んでいるまちの環境は、住民が守り、つくっていく。意識の向上を期待します。
- ・一般区民生活では、なかなか考えずに生きている事を教えてもらえました。このようなシンポジウムをシリーズ化して区民の景観意識を向上するように努力を継続してください。

n

e

杉並景観録

w

s

平成24年11月3日～11月28日

「今」だから考えたい杉並の景観

「景観週間 2012」を開催しました

たくさんの方々のご参加ありがとうございました

News

大田黒公園周辺地区 景観まちづくりイベント

11月3日

●大田黒のピアノの音色を
楽しむコンサート
「高橋悠治ピアノリサイタル」

大田黒公園内の記念館において、高橋悠治氏によるピアノの演奏会を開催しました。ピアノは1890年製スタインウェイ。曲目はモーツァルト「ロンドイ短調」などが演奏されました。



大田黒公園周辺まち歩き

●点茶会

地元の茶道家・森田宗文さんとその社中の方々や区立松溪中学校の生徒さんにより、大田黒公園内の茶室でお茶を点てもらいました。公園に訪れた方々が、おいしいお茶とお菓子を楽しみました。

●大田黒公園周辺まち歩き

ツアーガイドの案内により、大田黒公園周辺の与謝野公園、松溪公園（遺跡）や水路跡などを訪ねて、地域に残されたみどりや歴史とまち並みを楽しみました。

News

「荻窪の魅力をデザインする」 展示・発表

11月12日～16日

工学院大学建築学部の学生による荻窪のまちづくりへの提案発表会を開催しました。3つのグループが荻窪の魅力を最大限生かせるような計画を発表し、参加者との意見交換を行いました。発表会で使用された模型とパネルは期間中、荻窪駅前事務所前に展示しました。



発表会（11月14日）

News

展示「杉並の残したい風景展」

11月17日～25日



阿佐谷地区区民センターぶらっとりー展示

「NPO法人東京を描く市民の会」による「杉並の残したい風景」と題した絵画や写真約50点を、阿佐谷地区区民センター1階のぶらっとりーで展示しました。期間中は多くの方が訪れ、力作を楽しむとともに自分でも絵を描いてみたいと会へ参加される方もいました。

News

角川庭園 すぎなみ詩歌館まつり

11月25日



講演会

庭園とすぎなみ詩歌館を巡る「園内見学ツアー」、荻窪南の周辺を歩く「まち歩きツアー」や「俳人・角川源義の魅力」～角川源義作品の抒情についての講演会を行ないました。講演会では、角川源義の俳人としての足跡とその作品を紹介し、ゆかりの深い方々によりその魅力が語られました。

Topics

第11回 杉並「まち」デザイン賞 候補募集！

おしえて!! まちの「とっておき」

杉並区の魅力的な景観づくりに貢献している建物・地域活動などを皆さんの推薦のもとに選定し、その維持形成に努めている方々を表彰する杉並「まち」デザイン賞の候補を募集します。

推薦対象：杉並区内に現存する建物（住宅・店舗など）
工作物（看板・さく・ベンチ・植込み・外壁など）
地域活動（まちなみを魅力的に演出している団体など）です。

推薦方法：はがき・電話・FAX・メールでまちづくり推進課まで下記の事項をお知らせください。

- ・推薦する建物などの所在地
- ・あなたの住所、氏名、電話番号
- ・推薦理由（簡単なコメント）

締切：平成25年7月31日

発表：平成25年11月（予定）広報・リーフレット・HPでお知らせします。

選考方法：選考委員による選考



ポスター

【お問い合わせ・推薦・応募先】

杉並区都市整備部まちづくり推進課景観係
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL. 03-3312-2111 FAX. 03-3312-2907
E-mail matidukuri-k@city.suginami.lg.jp

Topics

ある区マップ 荻窪北・下井草編を発行

好評の「すぎなみ景観ある区マップ」の第3弾を発行します。今回はJR中央線と西武新宿線をまたぐ、荻窪北から下井草周辺のまち歩きが楽しくなるような地図を作りました。配布開始は平成25年4月を予定しています。どうぞお楽しみに！
(配布開始時期と配布場所は、広報すぎなみでお知らせします)



すぎなみ景観ある区マップ